

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月30日実施)	総合評価 (3月13日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	①児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育活動を実践する。 ②ICT機器等の有効活用による多様な授業の研究・実践を推進する。	①学習効果を上げられるよう、体験的な学びを授業に取り入れる。 ②昨年度のICT機器を活用した授業研究を踏まえ、実践を重ね、教員間で共有する機会をつくる。	①各教科、領域において、体験的な学びとは何か、日頃の指導を整理し、効果的な実践につなげる。 ②各自で実践した授業を共有する機会を研究で設定する。作成した指導案を記録として残し活用するシステムをつくる。	①各教科・領域における体験的な学びを意識し、効果的な実践につなげられたか。 ②ICT機器を活用した授業実践を積み重ねられたか。教員間で共有できたか。	①各教科・領域において、体験的な学びについて考え授業を実施した。小中学部においては、具体物を用いた授業、実験、調べ学習、出前授業、オンライン見学授業等、重心部門においては、五感に働きかける授業等を実施した。 ②各学部・部門の実態に応じた小集団を編成し、指導略案等を用いICT機器を活用した授業実践の共有、検討を行うことができた。また、2回の報告会を設定し、活動内容の共有を図った。	①引き続き体験的な学びを取り入れた学習を行い、効果的な実践を重ねていく。 ②授業検討会の企画・運営方法や報告会の実施方法等を検討し、ICT機器等の有効活用による授業実践を行い、学校全体で授業改善につなげていく。	①体験的な学習を重視しているということは評価できる。所属している福祉施設や病院でも、利用者や患者が直接体験できる行事を工夫して計画・実施している。 《学校評価アンケート》 「児童・生徒は、楽しく学校の授業に参加している。」 【小学生】 そう思う・少し思う (86%) 【中学生】 そう思う・少し思う (74%) 【保護者】 そう思う・少し思う (92%) 【教員】 そう思う・少し思う (96%) ②・ICT機器の活用については中身が大切。1人1台端末は、辞書や定規と同様で、あくまでツールであり、個別最適な学びのために活用しないといけない。子どもたちが思考するように機器を使っていくべき。 ・学びの継続のために児童・生徒の個人アカウントを転出入時に引き継げるとよい。 《学校評価アンケート》 「ICT機器を活用した効果的な授業を行っている」 【小学生】 そう思う・少し思う (75%) 【中学生】 そう思う・少し思う (94%) 【保護者】 そう思う・少し思う (20%) わからない (70%) 【教員】 そう思う・少し思う (94%)	①各教科・領域において、体験的な学びとは何か、について改めて考え、実践を重ねた。 ②各自で行った実践を毎月の授業検討会において小集団で共有し、学校全体としては、2回の報告会を実施し、学びの成果を共有した。引き続き、授業検討会の企画・運営方法や報告会の実施方法等を検討し、効果的な学び合いの場を設定していく。 学校評価アンケートで、70%の保護者が授業について「わからない」と回答しているので、保護者への発信が課題である。	①いつもの学習スペース(教室やベッドサイド等)でできる体験的な学びについて、創意工夫しながら取り組んでいく。今後は、効果的な学習という視点をさらに深め、引き続き実践を広げていく。 ②ICT機器の活用については、「個別最適な学びのために、児童・生徒が思考するように機器を使っていく」という学びの根幹を再度意識し、実践を重ねていく。 授業参観について、今年度から保護者の希望に合わせ、個別に実施する方法を取り入れた。個別に授業参観ができることを学校だよりや通信で定期的アナウンスしていく。新しく導入される「すぐーる」を活用し、保護者への文書発信等も行っていく。
2	児童・生徒指導・支援	①児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。 ②児童・生徒の教育的ニーズを的確に捉え、教員間で共有する仕組みをつくる。	①児童・生徒が自らの特性や長所を理解できるよう、学校生活全般を通して指導・支援する。 ②児童・生徒の実態把握を丁寧に行い、個別教育計画の目標設定に反映させる。	①児童・生徒が自分を知り、自らのよさに気づくことができたか。 ②児童・生徒の教育的ニーズを的確に捉え、個別教育計画の目標設定に反映できたか。	①教員間で丁寧な情報共有を行い、教員が児童・生徒の良さを本人に伝えるようにした。児童・生徒が発信する機会を設け、活動を通し児童・生徒が達成感や自信をもてるようにした。 ②学部・部門の実態に合わせ、児童・生徒の特性、保護者からの聞き取りや引継ぎ資料等をもとに個別教育計画を作成し、教員間で共有することができた。	①引き続き、児童・生徒が自己理解を深められるような働きかけを行っていく。 ②引き続き、個別教育計画の共有や病院関係者との会議等で得た情報共有を円滑に行い、教育的ニーズに応じた指導・支援を行っていく。	①② 病弱教育の本質は、教育課程を修了するということより、その子に学ぶ力をつけ、前籍校に復学したときに不全感を持たせないようにすることである。児童・生徒、一人ひとりニーズが違うので、工夫をしながら指導・支援してほしい。 《学校評価アンケート》 ①「児童・生徒が自らの特性や長所を理解できるよう指導・支援を行っている」 【小学生】 そう思う・少し思う (75%) 【中学生】 そう思う・少し思う (87%) 【保護者】 そう思う・少し思う (82%) 【教員】 そう思う・少し思う (94%)	①教員が一人ひとりに丁寧に関わり、児童・生徒が自分のよさに気づけるよう働きかけを行うとともに、児童・生徒が主体的に活動する場面を用意し、達成感や成就感を得られるよう取り組んだ。次年度は、今年度取り組んだ自己理解に加え、他者理解に取り組んでいく。 ②児童・生徒の実態把握を丁寧に行い教育的ニーズを把握するために、会議の場での共有、記録の資料回覧等を行った。また、日々の出来事の情報交換を都度行い、教員間で共有したうえで指導・支援にあたることができた。	①各教科・領域において、児童・生徒が理解協力する教育活動の場を、意図的に作っている。 ②会議に参加できない短時間勤務の教員等との情報共有が引き続きの課題になるので、今後も、教員間で情報共有する方法を工夫しながら指導・支援を行っていく。	
3	進路指導・支援	将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行	①児童・生徒が主体的に自己選択・自己決定する機会を授業に取り入れ実践する。	①各教科、領域で、児童・生徒が自分で考える場面を用意し、主体的な活動積極的に取り入れていく。 ①児童・生徒が主体的に自己選択・自己決定する機会を授業に取り入れられたか。	①児童・生徒が自分の考えをもてるような資料提示や発問を工夫して授業づくりを行うことができた。重心部門では、学習内容・学習環境等を工夫し、声や表情、身体の動きで気持ちを表現する場	①②引き続き、児童・生徒が自分で考えて生活を組み立てられるようになるための指導・支援を行っていく。 ①・福祉施設でも、利用者の体験や意思決定を大切にしている。 《学校評価アンケート》 ①「児童・生徒が授業の中で自分で考え、主体的に活動する場面を作っている」 【保護者】 そう思う・少し思う (72%) わからない (28%)	①各教科、領域で、児童・生徒が自分で考え、主体的に自己選択・自己決定する機会を作ることができた。キャリアパスポートを活用し、自分を見つめ、将来について考える場を作ることができた。 ②日常のあいさつ、持ち物の整理整頓、忘れ物を減らすなど、児童・生	①将来、主体的に自己選択、自己決定できるよう、引き続き指導を続けていく。		

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月30日実施)	総合評価(3月13日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	う。	②基本的な生活習慣を身につける指導・支援を実践し、充実した将来の生活につなげる。	②あいさつや持ち物の管理等、学校生活全般を通して指導していく。	②児童・生徒は将来の生活につながる生活習慣を身につけることができたか。	面を頻繁に設定することができた。 ②教員から積極的にあいさつをし、定期的にロッカー整理等促した。児童・生徒の実態や発達段階に応じた言葉かけ等を行い、自覚して動けるよう働きかけた。		【教員】 そう思う・少し思う (94%) ②「児童・生徒が基本的な生活習慣を身につけられるよう指導・支援を行っている」 【小学生】 そう思う・少し思う (73%) 【中学生】 そう思う・少し思う (58%) 【保護者】 そう思う・少し思う (65%) わからない (35%) 【教員】 そう思う・少し思う (89%)	徒が自覚的に取り組めるよう指導した。 ②学校評価アンケートで、中学部が58%と低めの評価となっている。中学生という発達段階もあり、あいさつという点で自己評価が低くなったと思われる。発達段階や特性に配慮しながら今後も丁寧に指導していく。 ①②学校評価アンケートで、30%程度の保護者が「わからない」と回答している。	②引き続き、児童・生徒の実態や発達段階に応じた言葉かけ等を行い、自覚して動けるよう指導・支援を続ける。
4	地域等との協働	病弱教育に関する理解・啓発を図り、児童・生徒の地域生活が豊かになるよう支援を行う。 ②地域の力を授業に取り入れ、実践する。	①著作権や個人情報に配慮した上で、魅力的な情報発信のあり方を探る。 ②病院のボランティア組織等と協働し、学部部門で1回以上出前授業を行う	①著作権や個人情報に配慮し、魅力的な学校ホームページや学校だよりを発行できたか。 ②出前授業を1回以上行ったか。	①著作権や個人情報に配慮し、定期的に学校ホームページを更新し、学習の様子や職員研修等の発信をすることができた。また、病院の廊下を活用し、学習発表展等を実施したことに加え、学校が設置した開架台に、児童・生徒の作品掲示を行うとともに、学校だより等の配架を実施し、年間通して学校からの情報を発信することができた。 ②小学部4回、重心部門1回、出前授業を行った。中学部は現在計画中である。つなぐ支援部会での意見をもとに、病院ボランティアや地域の方と新たなつながりを作ることができた。	①学校からの発信が確実に保護者に届くよう、来年度から導入する統合型校務支援システムを活用した発信を検討する。 ②今年度広がった地域とのつながりをさらに深め、地域資源を授業に活かす方法を検討する。	①・学校だより「南の風」がよい。読んで温かい気持ちになる。地域の一員として学校の力になりたい。 ・学校評価アンケートは客観的に学校の取組状況がわかるので、実施してよかった。質問の仕方や内容は今後ブラッシュアップする必要がある。 ・学校での学びの成果を、子どもを通して、保護者にフィードバックするという方法もある。保護者にも一緒に学校の教育活動を支えてもらうことが大切。 《学校評価アンケート》 「おたよりやホームページなどで学校の様子を丁寧に伝えている」 【保護者】 そう思う・少し思う (87%) 【教員】 そう思う・少し思う (86%) ②・地域の方の学校見学を企画・実施したが、出前授業実施には簡単には結びつかなかった。細く長く丁寧につなげていきたいので、学校とよく確認して続けていきたい。 ・初めてのことを行うときには、初回はうまくいかないこともある。何のために出前授業を行うのか、授業の目的を確認した上で回数を重ねていくと、授業がよいものになっていく。	①学校だより、ホームページ、病院内に設置した開架台等を通して、学校の教育活動について積極的に発信を行った。 ②今年度の成果であるつなぐ支援部会での協力をもとに、各学部・部門の実態に合わせた形で、地域の力を授業に取り入れられるよう取り組んだ。	①今回の学校評価アンケートでは、保護者の「わからない」の回答が多かったので、入院・入所中の児童・生徒の学習の様子や成果を保護者に伝えられるよう、発信方法について検討するとともに、魅力的な発信ができるよう具体的に取り組んでいく。また、次年度より神奈川県として統合型校務支援システムを本格的に導入するので、新しいシステムを活用した発信について検討する。 ②病院ボランティアや地域の方との新たなつながりを活かし、取り組みを広げていく。
5	学校管理 学校運営	①教職員が同僚性を発揮して質の高い教育を展開する。 ②児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進する。	①不祥事防止研修を活用し、同僚性を高める。 ②各部署で、教育課程・グループ編成の見直しについて検証を行う。	①学部部門を越えたグループワークを取り入れた研修を行う。 ②アンケートを取ったり、意見を集約したりする。	①教職員が学部部門を越えて関わる機会を設定できたか。 ②教育課程・グループ編成について、検証・確認することができたか。	①引き続き日常的に情報共有を行う中で、話しやすく、お互いを信頼し合える職場づくりを目指していく。 ②次年度導入予定の統合型校務支援システムと本校のシステムの融合を検討する。引き続き教育課程の検証を行い、本校の実情に合った教育課程の編成を目指す。	①「ワールドカフェ」は、職員かのコミュニケーションを高めるよい取組なので、今後も続けていけるとよい。 《学校評価アンケート》 「教職員が連携・協力して教育活動に取り組んでいる」 【保護者】 そう思う・少し思う (80%) 【教員】 そう思う・少し思う (100%) ②子どもたちが、探求心を持ち、学ぶ姿勢、学ぶ意欲、知的好奇心を年齢相応にもてるように指導・支援することが病弱教育の学校の意義である。そのため、授業回数や時間を大事にしていく必要がある。 《学校評価アンケート》 「教職員は、働き方改革を意識し、時間外勤務時間を減らし、業務の精選をする意識をもって仕事をしている」 【教員】 そう思う (30%) 少し思う (43%)	①同僚性を高めるための夏の「ワールドカフェ」の取組は有効であった。また、学部・部門、グループごとに不祥事防止について目標を定め、年間を通して不祥事・事故防止に努めることができた。 学校評価アンケートで、教職員間の連携・協力についての「そう思う・少し思う」の回答が100%であったことは、今年度の取組の成果である。 ②年間を通し、教育課程、グループ業務の検証を行い、次年度の計画を立てることができた。引き続き教育課程の検証を行い、本校の実情に合った教育課程の編成を目指す。	①同僚性を高める、という意識を皆でもち、自由で活発なコミュニケーションを大切にし、信頼感をもって仕事ができる職場づくりを目指していく。 ②教育課程、グループ業務の検証を引き続き行い、児童・生徒と向き合う時間を確保するための働き方改革を進める。学校関係者評価でいただいた助言をもとに実践を積み重ねていく。

